

【下関市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

災害の発生に備え、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識を基に的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時**：令和4年8月20日（土）
- 2 実施場所**：下関市立安岡小学校
- 3 参加者**：安岡小児童12人、安岡中学生12人、下関工科高等学校生徒9人、地域住民9人
安岡小保護者11人、幼児1人
小学校教職員6人、中学校教職員4人、高等学校教職員1人
市北消防署職員6人、地域消防団員7人、学校地域協働活動推進員2人
市防災危機管理課職員2人、市教育委員会職員2人、県教育委員会職員1人
県学校防災アドバイザー1人

4 プログラム

	8:30	9:00	9:30	12:00	13:00	14:30	15:50	16:10
受付		開会行事	自己紹介					
			【防災体験】 ①土のう作り ②ロープワーク・簡易担架作り ③放水体験 ④煙体験	【備蓄食料の実食】	【講義①】 『土砂災害から命を守る』 【講義②】 『自分の命は自分で守る』	【演習①】 『段ボールベッドを作ろう』 【演習②】 『安岡近海の地形モデル作り』	活動の振り返り	閉会行事 後始末

5 活動の様子

※ 高校生がリーダー役として小・中学生をまとめ、各班（4グループ）とも主体的にプログラムに取り組みました。

(1) 《受付・開会行事・自己紹介》（市防災危機管理課、高校生）

参加者は、安岡小学校体育館を避難所と想定し、避難をしました。

受付業務は、市防災危機管理課の指導の下、高校生が担当し、避難者を出迎え「避難者カード」を確認するなどの業務を行いました。

また、開会行事後は初対面となるメンバー同士の心をほぐし、以後の活動で協力しやすい関係をつくるために、班ごとに自己紹介をしました。ここでも高校生がリーダーシップを発揮し、温かな雰囲気の中で自己紹介が進んでいきました。名札には、名前だけでなくニックネームも記入しました。



【高校生が受付を担当】



【開会行事の様子】



【班ごとの自己紹介】

(2) 《防災体験》

① 土のう作り (地域消防団)

地域消防団員の指導の下、グラウンドで実際に土のう袋に土を入れて袋の口を縛るまでの作業を行いました。初めて体験する参加者が多く、汗だくになって活動しました。出来上がった土のうは、敷地内に積みました。



【土のう作り】

② ロープワーク・簡易担架作り (市北消防署)

市北消防署職員の指導の下、ロープワークと簡易担架作りを行いました。ロープワークは、災害時の様々な場面で役に立つことを教わりました。

また、簡易担架作りでは身の回りにあるものを組み合わせて担架の代用ができることを教わりました。多くの人が同時に担架を必要とする時には、応急的に対応できるようです。



【ロープワーク】



【簡易担架作り】

③ 放水体験 (地域消防団)

実際の消火活動に使われるホースを使って放水にもチャレンジしました。約十メートル先の炎に見立てた三角コーンを狙い、真剣な表情でホースを握っていました。予想していた以上に水の勢いがあり、思わず体がもっていかれそうでした。



【放水体験】



【煙体験】

④ 煙体験 (市北消防署)

煙が充満した暗い通路から避難する体験によって、火災煙が発生したときの避難方法を知ることができました。今回の煙は、濃煙体験用の無臭・無害の煙を使用しました。

(3) 《備蓄食料の実食》

避難所では、非常食の備蓄食料を食べることもあります。思った以上においしかったという声を聞きました。新型コロナウイルス感染症対策として、同じ方向を向いての黙食としました。

備蓄食料→非常用缶入りミニクラッカー、非常用ビスコ、非常用5年保存水



【備蓄食料の実食】



【防災グッズの展示場】

(4) 《講義① 講師：県学校防災アドバイザー》

県学校防災アドバイザーの前田正章氏から、『土砂災害から身を守る』と題して、災害についての講話をいただきました。分かりやすい資料をもとにして、災害に及ぼす危険や正しい避難の仕方、避難生活で大切にしたい心構えなど、丁寧に教えてくださいました。また、市のハザードマップを見ながら、安岡地区の危険箇所を確認し、どこに避難すればよいのか、考えることができました。



【アドバイザーによる講話】

(5) 《講義② 講師：市消防団下関方面隊長》

市消防団下関方面隊長から、『自分の命は自分で守る』と題して、私たちの身の回りにある危険箇所を確認したり、熊本地震の際に、仲間たちと災害ボランティアに参加したときの思いを語っていただいたりしました。ボランティアでは、一期一会で偶然出会った人たちとのコミュニケーションを通じて、自分も様々な人たちに支えられながら生きていることを実感できるとても貴重な体験となり、心打たれたことをみんなに伝えました。



【下関方面隊長による講話】

(6) 《演習① 指導者：市防災危機管理課》

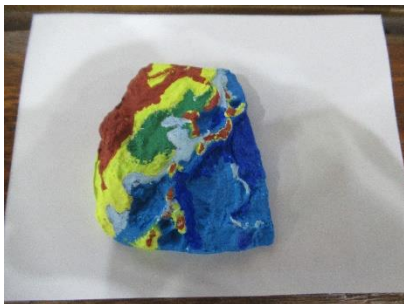
市防災危機管理課職員の方の指導により、全員で段ボールを使ったベッド作りをしました。非常災害のとき、体育館に避難した際に使用することになります。ベッドの他にプライバシーに考慮したパーテーションも作成しました。より快適に過ごすことができる寝室が出来上がり、貴重な経験となりました。



【段ボールベッド作り】

(7) 《演習② 指導者：安岡中学校教員》

安岡中学校の教員による演習では、安岡近海の地形モデルを作成しました。石膏で作られた白い模型に絵の具で色を塗ることで、オリジナルの地形モデルが出来上がりました。五感を通して学び、様々な知識を獲得することができました。



【色塗りをした地形モデル】



【各コーナーに設置された看板】



【小・中・高校生による発表】

【児童・生徒・保護者の感想から】

(小学生)

- 気を付けることがいろいろ分かってよかった。多くのことを知っておくことで、いざという時に人を助けることができると思った。

(小学生)

- 僕は、あまり防災のことを意識していなかったのですが、今日の防災キャンプを通して災害は身近に起こるので、様々な防災の知識を身に付けることで被害を少なくできることを学びました。日頃から防災意識をもとうと思いました。

(中学生)

- 保存食は、5年ももつことが分かりました。講義から、早めの避難が大切だと思いました。段ボールは、子供4人が乗っても壊れなくて丈夫だと思いました。防災キャンプに参加してよかったと思いました。今日したことが、いざ本番でできるか不安だけど、パニックにならずに冷静に正しい行動をとりたいです。

(中学生)

- 参加する前は、土のう作りなど私にはきびしいんだろうなと思っていたけれど、分かりやすく教えてもらったので、簡単にできました。段ボールベッド作りも簡単でした。いろんな人が簡単にできるように工夫されていると思いました。

(高校生)

- 下関市は災害が少ないので、私は今まで災害に対しての意識が低かったと感じました。今回の防災キャンプで必要な知識を得ることができてよかったです。また、班のみんなと楽しくできたのでとても満足できました。最近の保存食がとてもおいしかったので技術の進化を感じました。警報のことやハザードマップの大事さや危険度など知ることができてよかったです。

(高校生)

- 災害への意識がより深まってよかったです。まだ自分の知らなかったことをたくさん知れてよかったし、実際に災害が起きたときに、防災キャンプで学んだことを使ってみんなで協力して過ごすことができたらいいなと思いました。日常でもしっかり防災対策をして、いつ災害がきてもいいように備えていきたいと思いました。人が安全に避難するために、様々な工夫がされていると思いました。

(保護者)

- 救助する際に、道具を作る速さはもちろんのこと、救助される人の気持ちも考えて救助方法を決定しているのを知って、すごく驚いた。煙体験は、想像以上に息がしづらかった。防災というと、今までぼんやりとしたものしか思い浮かばなかったけど、今日、防災キャンプに参加して、防災に関する知識がすごく増えた。特に避難する側と救助する側の両方の体験ができたことがすごくよかった。これからは、もし災害が起きたときに避難したり助けたりできるように、今日のことを覚えておきたい。

(保護者)

- 土のう作りは、思ったより大変で積み重ねるにも工夫があると思った（半分から6分まで入れる）。煙体験では、前が見えずに本当の火災だと、もっとあせると思うので落ち着いて行動する必要を感じた。ビスコやクラッカーは美味しかったが、お年寄りの方や歯が悪い人は食べにくいだろうと思った。『避難したい』と思える避難所ができれば素晴らしいと思った。不便であろうし、嫌と感じたら避難したくないと考える人が出てきそうだと思った。災害のときも優しい気持ちで思いやりをもつことの大切さを学んだ。会場が学校という、実際の避難所になる場所でありイメージがしやすかった。

【児童・生徒・保護者のアンケート結果】

※回答者数 42人

質問項目	回答		
	はい	まあまあ	いいえ
以前よりも災害に対する認識が深まりましたか。	35人	7人	0人
「避難すること」の大切さがわかりましたか。	37人	5人	0人
「自分にできること」がみつかりましたか。	35人	7人	0人